

世界文化遺産の遺産影響評価に係る参考指針（概要）

1. 本参考指針の背景

近年の世界遺産委員会では、世界遺産の資産範囲、緩衝地帯及びその周辺において事業が計画された際にその影響を評価する「遺産影響評価（Heritage Impact Assessment：HIA）」の実施を求められる事例が増えている。遺産影響評価の考え方や方法は、世界遺産委員会の諮問機関であるイコモスにより 2011 年に「世界文化遺産の遺産影響評価についてのガイダンス」としてとりまとめられているものの、なお十分に整理されていない点も多い。遺産影響評価の方法は、各資産の価値や特性に基づき整理することが必要であり、さらに各種事業の規模・内容等の実情に応じて個別具体的な対応が求められる。

国内の各世界遺産において、遺産影響評価を実施していく上での一定の共通理解が得られるよう、その手順・手法等の基本的な考え方について整理するため、文化庁は委託事業（独立行政法人東京文化財機構東京文化財研究所「世界文化遺産の遺産影響評価に関する調査研究」）を実施し、以下の項目からなる参考指針をとりまとめた。今後は各資産を管理する地方自治体において、この参考指針やイコモスのガイダンスを参照しつつ、それぞれの特性等に応じた遺産影響評価の手順・手法等を整理していくことが重要である。

2. 参考指針の主な内容

- 遺産影響評価の流れ（参考指針 2.2 別紙図 1 参照）
- 遺産影響評価の対象となる事業の考え方（参考指針 2.3）
- 世界遺産としての価値の整理（参考指針 2.4）
- OUV への影響の可能性の有無を検討した結果、詳細な分析が必要ない場合の取扱い（参考指針 2.5）
- 評価報告書作成に当たっての留意事項（参考指針 2.6）
- 作成した報告書の取扱い（参考指針 2.7）
- 包括的保存管理計画整備の必要性（参考指針 2.8）

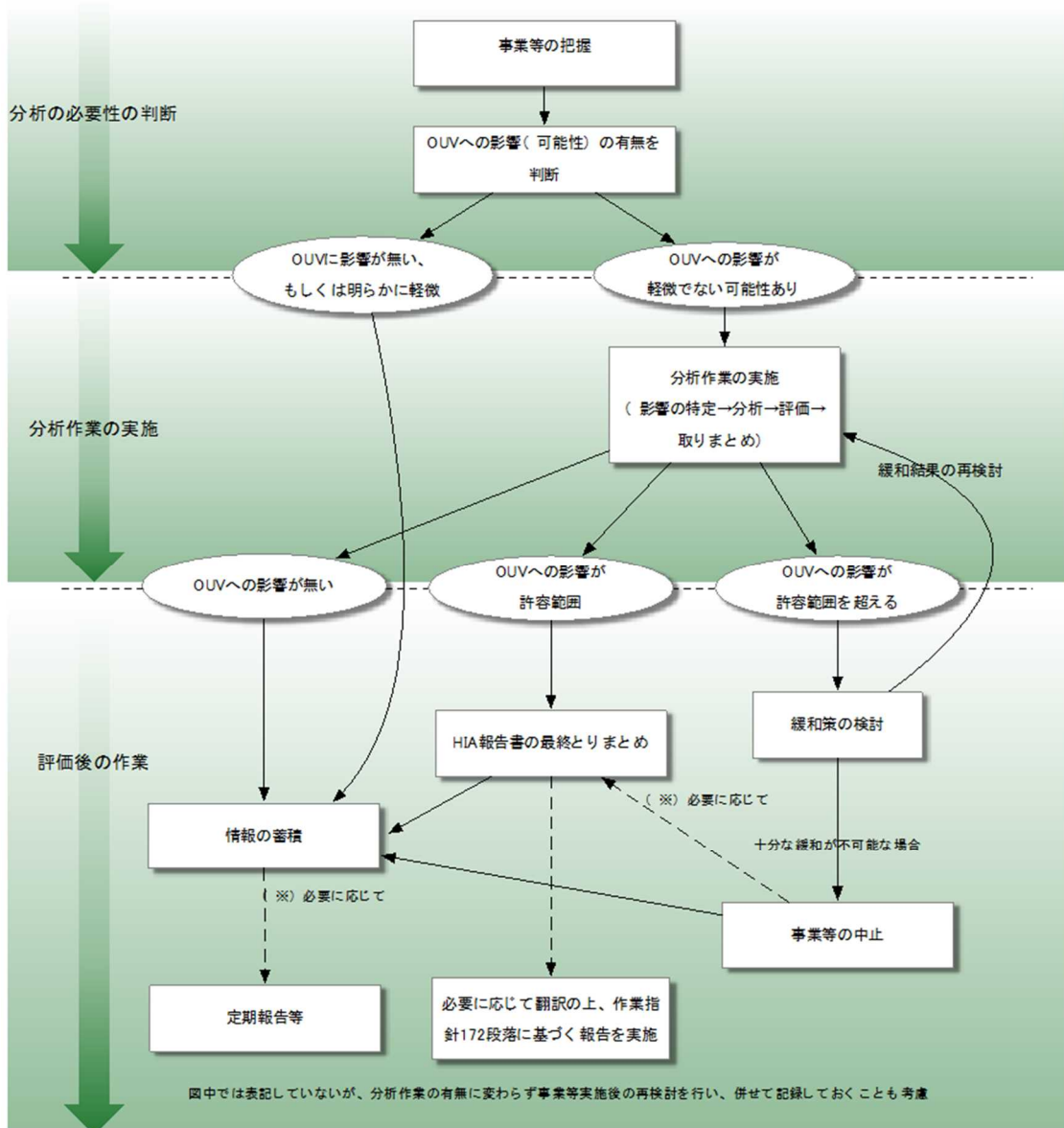
（参考）「世界文化遺産の影響評価の参考指針」文化庁のウェブサイト

http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/sekai_isan/1416448.html

（参考）「世界文化遺産の遺産影響評価に関する調査研究」東京文化財研究所のウェブサイト

<https://www.tobunken.go.jp/japanese/publication/pdf/2019-research-HIA.pdf>

参考指針 図1：遺産影響評価の基本的な流れ



参考指針 図2
詳細分析を要するか否かの判断

